

## 自己点検・評価での課題への対応

部局等 総合情報基盤センター

| 自己点検・評価での課題等<br>(令和7年1月17日実施)   | 対応策・対応状況・部局長の意見等  | 対応策に対する進捗状況   |
|---|---|---|
| <p>基準番号:2-2</p> <p>専任が少なく、多くの兼任により支えられており、限られた人員での現状維持の取り組みにも限界がある。現状の人員構成での限界は感じており、より新しい技術を取り入れていくためにも、専任教員の増が必須と考えている。また、人材の育成においても、担当する人材の確保が必須と考える。</p>  | <p>人員増に向け、学内で可能な取り込みを模索し活用していく。</p>                     | <p>総合情報基盤センターの専任・兼任教員・非常勤職員と情報企画課職員の役割分担を明確化し、教職協働による継続的かつ安定的な情報基盤運用体制の構築を進めている。具体的には、令和7年5月より欠員となった総合情報基盤センター専任教員の公募と、総合情報基盤センター情報サービス推進部門の業務にあたる情報企画課技術職員(特命職員)の募集を進めている。また、総合情報基盤センター非常勤職員については、効率的かつ継続的にサービス提供を行うための配置を明確にし、求人広告も活用した募集を開始している。</p> |
| <p>基準番号:5-1</p> <p>今後、文京地区の建屋の老朽化による、設備(演出室の机、音響設備、電気配線、給排水設備など)、両地区の電算機室、サーバ室、ネットワーク室の空調設備の維持に金銭面での課題があり、24時間開館の要望がある場合には、新たな設備の導入も必要となる。さらに、BCPを念頭にした、施設設備の更新の検討も必要と考える。</p> <p>また、松岡地区の管理室は、当初より手狭であり、窓がなく、精神的にも良いとは言えず、他の場所(管理棟、臨床研</p> | <p>現存維持に努めるが、厳しい学内財務状況のなか、必須、優先順位を明確にし、地道に交渉を続けていく。</p> | <p>総合情報基盤センターより学内へサービス提供している仮想サーバや仮想基盤利用等の受益者負担金より捻出し、優先順位に基づいた、計画的な設備更新を検討する。なお令和7年3月に第1端末室の老朽化椅子の入れ替えを行った。</p>  |

|   |   |  |
|---|---|--|
| <p>究棟、B棟の上層階など)で新たに確保できないかと思案している。</p>  |   |  |
| <p>基準番号:6-1</p> <p>現状、ほぼ、維持経費となっており、新規事業や新しいニーズへの対応に向けた研究・実験に要する経費が乏しく、新たな取り組みを積極的に展開しにくい状況である。限られた予算のなかで、どう補っていくか、慎重な検討が必要である。</p> | <p>最低限のこととし、現状維持を確保していくが、厳しい学内財務状況のなか、必須、優先順位を明確にし、交渉を続けていく。</p> <p>また、各サービスへの受益者負担の増を検討し、新規事業の展開を検討可能な状況となることを模索していくが、対応する人材の確保も必須である。</p> <p>さらに、研究・実験のできる環境を構築し、その成果により、新規事業を生み出し、学内の情報サービス、情報基盤において、リードしていく存在となることを目標とする。</p> | <p>総合情報基盤センターより学内へサービス提供している仮想サーバや仮想基盤利用等の受益者負担金より捻出し、認証基盤の改修等を計画している。全学的な予算削減が進む中、受益者負担金を、単なる運用費だけでなく、中長期的な設備更新や保守体制の維持に戦略的に配分する方針を検討していく。</p> <p>総合情報基盤センターの専任・兼任教員・非常勤職員と情報企画課職員の役割分担を明確化し、教職協働による継続的かつ安定的な情報基盤運用体制の構築を進めている。</p> |
| <p>基準番号:8-3</p> <p>少数精鋭、最適化及び効率化を目指した結果、限られた予算、人員にて、最低限を確保し、維持できているが、新たなニーズ、より高度な要求には耐えられない。</p>                                    | <p>新たなニーズ、より高度な要求には現状で凌ぐしかなく、厳しい学内財務状況のなか、必須、優先順位を明確にし、予算増、人員増の交渉を続けていく。</p>  | <p>総合情報基盤センターの専任・兼任教員・非常勤職員と情報企画課職員の役割分担を明確化し、教職協働による継続的かつ安定的な情報基盤運用体制の構築を進めている。</p>   |

※記入欄は適宜追加してください。